講演会

「環境演劇」の再来

“Environmental Theater” revisited

最近のヨーロッパ演劇では、環境をテーマにする試みが見られるようになりました。その代表格がフィンランド出身のアンネッテ・アーランダーです。彼女は自身のパフォーマンスにおいて、自然環境の素材を芸術的に探究することで、芸術と自然探究を独自の方法で結び付けようとしています。アーランダーの試みは、１９６０年代から始まった「サイトスペシフィック・アート」やリチャード・シェクナーの「環境演劇」の発展形とみなすことができるでしょう。

アーランダーのパフォーマンスを具体例として、新しい環境芸術の試みにどのような可能性があるのか、またこの試みが環境アートの歴史においてどのように位置づけられるかについて、ベルリン自由大学人文学研究所・博士研究員のダニエラ・ハーン氏が講演形式にて論じます。

ハーン氏は昨年、環境芸術の最先端を多角度から論じた共編著”Ökologie und die Künste“を Wilhelm Fink 社より上梓し、この分野を牽引する気鋭の研究者です。環境と演劇／芸術の本格的な研究が少ない日本では、氏の講演は貴重な機会となります。

奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

記

講演者：ダニエラ・ハーン氏　（ベルリン自由大学人文学研究所・博士研究員）
司会：平田栄一朗（本塾文学部教授）
日時：2016 年 1 月 28 日（木）　16：30－18：00
場所：三田キャンパス南館 4 階会議室
主催：慶應義塾大学文学部独文学専攻
助成：科学研究費基盤研究（B）プレゼンス論とアブセンス論の統合を目指して日欧の現代演劇の比較論的考察
＊講演はドイツ語で行われます（通訳なし）
＊予約不要
連絡先：hirata@flet.keio.ac.jp (平田栄一朗)